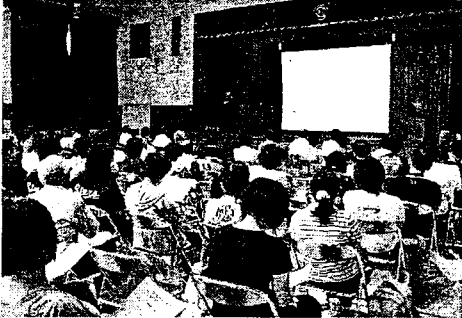



事業名	小国芸術村企画展
事業の内容	<p><b>【目的】</b></p> <p>昭和63年から地域内の芸術文化振興・交流・地域振興の拠点として設置された「小国芸術村」。その主要施設である芸術村会館において毎年「紙」に纏わる縁により特別展を開催した。手漉き紙を基として開催される催事と併せ交流・体験を行うことにより、今後とも無形文化財の「小国和紙」の発信と、「紙」に纏わる縁による作家等との体験・交流を図るもの。</p> <p>また、小国芸術村は小国地域の南端に位置していることから、企画展を開催しそのPRとともに小国地域他施設の情報発信の役割を果たすもの。</p> <p><b>【内容】</b></p> <p>①「小国紙に描く」～青木洋子作品展～  (5月1日から5月13日まで開催) 来場者380名 特別授業67名  小国町苔野島の中村英一さんの遺した小国紙に、静岡県沼津市在住の画家青木洋子氏が「小国の四季」と題した屏風をはじめ、すべて新しく描いた作品を展示するもの。併せて、小国地域3小学校を青木氏が巡り、小国紙を使った作品作りの特別授業を行い、児童に自分の手で作ることの楽しさや地元小国紙をより身近に感じる感性を育むもの。</p> <p>②「地域と人を結ぶ交流展」～四人展～  (5月19日から6月17日までの土日開催) 来場者322名  折り紙アート講師の相波葉子氏と交流がある東京都在住の画家村上伶(さかし)氏と鈴木保氏、そして小国地域出身の書家難波清郎(せいきゅう)氏の四人の作品を中心に展示するもの。</p> <p>③「悠・融・展(YU-YU-TEN)」～陶夏展～  (7月28日から8月16日まで開催) 来場者244名 教室参加44人  和紙を焼き物にする新技法で注目を集め、長岡市内で「うつわや美野里和楽庵」を主宰する小黒陶三氏と小黒氏が指導する美野里焼陶芸教室から育ち、公募展や各種展示会で活躍中の平瀬マリ子氏と藤野千恵子氏の作品を展示するもの。  併せて小黒氏を講師に迎えて花瓶制作の体験教室を開催し、第一線で活躍されている作家から指導を受け、物を作る喜びや交流を更に進めるもの。</p>
事業の実施による効果	<p>手漉き和紙からできる作品を鑑賞することにより鑑賞者の感性を育むことができた。</p> <p>第一線で活躍されている作家と直に接し、作品に触れ、手ほどきを受けたことにより、子どもたちに夢を与えた。また普段体験できない方法(野焼きなど)で作品づくりを行ったことで物を作る喜びや発見を体験できた。</p> <p>小国町苔野島の中村英一さんの遺した小国紙を使用することで「小国和紙」の魅力をより多くの人に伝えることができた。</p> <p>小国芸術村企画展のPRとともに、小国の情報発信の一翼を担った。</p>
今後の課題	<p>今後も継続した取組みと小国地域の伝統である「小国和紙」の啓発とあわせ、芸術文化の発信を行う必要がある。</p> <p>広く周知ができず、特定の参加者に偏った。小国芸術村はもとより小国地域を知ってもらうための情報発信の方法を模索する。</p> <p>小国地域をより知ってもらうため、アオーレ長岡との連携を深め、作品展示を進める。</p>

<p>事業名</p>	<p>元気な小国を育てる事業</p>
<p>事業の内容</p>	<p><b>【目的】</b></p> <p>小国地域では、各種スポーツ、けんこつ体操、水中運動等で運動している人々や食生活改善推進活動に取り組む団体が活躍する一方、働き盛りの世代は仕事や子育てに多忙で、運動不足や食生活に偏りが生じている現状がある。</p> <p>働き盛り世代の体力低下や生活習慣病予備軍の増加は、子どもたちにも影響を与えている。</p> <p>食生活の大切さを見直すとともに運動を始める動機付けの機会とし、健康づくりの気運を高めるために食育講演会とウォーキング大会を実施した。</p> <p><b>【内容】食育講演会&amp;健康ウォーキングの開催</b></p>   <p>開催日 H24年7月8日(日) 午前9時～午後2時</p> <p>会場 小国会館</p> <p>第1部 食育講演会 参加数 130名</p> <p>テーマ 「食生活で“生きる力”を育てよう！」</p> <p>講師 新潟医療福祉大学教授 斎藤 トシ子 氏</p> <p>第2部 健康ウォーキング(5キロコース・8キロコース) 参加数 180名</p> <p>第3部 ニュースポーツの紹介(ノルディックウォーク・ペタンク) 参加数 57名</p>
<p>事業の実施による効果</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小・中学校と共催したことで、働き盛りの世代や子ども達の参加があった。食生活が子どもの心や人間性を育む力があることや運動の心地よさを体験し、食生活の見直しと運動のきっかけ作りになった。</li> <li>・ 実行委員体制により企画したことで、スポーツ団体等と協力して実施することができ、今後の継続的な実施につながる足がかりができた。</li> </ul>
<p>今後の課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 運動の定着を図るためには、年1回のイベント実施だけでは難しく、継続的に普及啓発を行う必要がある、今後も実施する体制づくりが課題である。</li> <li>・ 今回は、学校の「地域連携フォーラム」と共催したことで若い世代と子どもの参加があったが、今後も若い世代を対象とするには、学校やPTAの協力が必要であり、どのような連携が可能であるか課題となる。</li> <li>・ 成人してから生活習慣を改善することは難しい現状がある。食生活面の見直しは、子育て中の保護者への普及啓発と子どもの頃からの食育が重要であり、学校などの関係機関と連携を図り継続的に行う必要がある。</li> </ul>

事業名	高齢者元気支援事業
事業の内容	<p><b>【目的】</b></p> <p>高齢化が進行している小国地域では、いつまでも自立した生活が送れるよう、介護予防や健康づくりのニーズが切実になっている。</p> <p>社会資源が限られている当地域では、これまで以上に住民と関係機関が協働して問題解決に当たることが重要になっている。</p> <p>そこで、住民と関係機関が参加するワークショップを企画・開催することで、地域の現状を自分たちの問題として捉え、協働に向け多様な人との新たなつながりを築く場とする。</p> <p>また、自主サークルとして活動しているけんこつ体操教室の支援の充実や地域型介護予防サービス修了者の受け皿づくりに取り組んだ。</p> <p><b>【内容及び進捗状況】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 関係者ワークショップの開催（3回実施予定） 関係機関の準備会議を重ね、第1回目ワークショップを6月6日に、第2回目ワークショップを9月28日に、第3回目ワークショップを2月に開催予定。</li> <li>2 住民参加型ワークショップの開催 11月に開催予定。</li> <li>3 事業の内容を通信にして地域に発信する 9月に第1号を発行、全戸配布する。以降、各事業の進捗状況に合わせ、年度内にあと2回程度発行予定。</li> <li>4 けんこつ体操インストラクターの育成 支所からのお知らせ9月号で一般公募を行い、インストラクター1名を養成予定。</li> <li>5 後期高齢者向けけんこつ体操教室（いきいき教室）の立ち上げ 9月から週1回10回の予定で開始。教室終了後は、サークル化し継続する予定。</li> <li>6 けんこつ地域教室の新規参加者を増やすための取り組み 通年で実施しているけんこつ体操教室へインストラクターを派遣。（10地区30回分）</li> <li>7 地域型介護予防サービス修了者の集まり（さくらの会）を立ち上げる 5月から月1回開催中。新規修了生の受入れや次年度以降の体制等を検討中。</li> </ol>
事業の実施による効果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ワorkshop等を通して新たなつながりができ、地域の問題解決のために協働する「地域力」が高まる。</li> <li>2 高齢者の集いの場や体操教室が増えることで、健康な高齢者が増え生活の質が向上する。その結果、増加する医療費や介護給付費を減らすことにつながる。</li> </ol>
今後の課題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 地域デイ修了生のつどいは好評で出席率が良く、既に現状の人数で限界である。地域デイは半年を1クールとしており、その都度修了生が出るため、修了生のつどいの対象者は増える一方である。受け皿に限りがあり、受入れ方法や会の運営方法について検討が必要である。</li> <li>2 既存のけんこつ体操教室へのインストラクター派遣を始めたばかりであるが、終了後、効果の検証が必要。</li> <li>3 後期高齢者向けけんこつ体操教室を開始した。参加者の意見を聞きながら継続に向けた準備を進める。</li> <li>4 各事業を始めたばかりであるが、事業終了後も継続していくための連携、調整等が必要。</li> </ol>